第 24 回長野広域連合ごみ処理施設整備計画等専門委員会議事概要

［日　時］　平成 28 年 11 月 7 日（月）14：00～16：30
［会　場］　東京ステーションコンファレンス 6F　602-A
［出席者］

専門委員	6 名
長野広域連合	4 名
（一財）日本環境衛生センター	1 名
八千代エンジニヤリング（株）	3 名

協議事項

（１）第 23 回委員会議事録の承認について

了承された。

（２）最終処分場について

①基本設計概要について

＜委員意見等＞

・降雨量の設定で菅平観測所のデータを使用しているが、仁礼の雨量が高い月もあり、地形も異なるため、補正係数を掛けて検討したほうが安全である。

・漏水が検知された際の保全対策について、対応時のシナリオを記載したほうが良い。GCL を使用しないのであればなおさらである。

・バルブ方式（自然流下案）を採用するならば、日常の維持管理が非常に重要となるため、維持管理計画に記載したほうが良い。

・使用する不溶化剤によっては COD が高くなったり、低分子型 BOD や COD だと凝集沈殿で落ちない可能性がある。埋立物対象物のデータを集め、無機物である根拠を示したほうが良い。

②事業方式及び発注方式について

＜委員意見等＞

・事業方式については長野広域連合の意見・方針を明確に主張したほうが良い。

・水処理施設の性能保証について流入水質が変化する可能性があるため、設定する値に注意が必要である。（水質の緩和等）

（３）その他

＜委員意見等＞

・埋立物は処分場に搬入する前段で一度洗うと早期に安定化し、廃止までの期間が短くなる。しかし、本件は飛灰関連があるため、難しい可能性がある。

・廃止後の放流方法について現段階で決めることはできないが、地元との協議を含め、シナリオをいくつか考えておいたほうが良い。

・跡地利用については地元住民の意向、地域振興、災害時の利用などを考慮しながら計画を作成したほうが良い。